

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

## P2「2013年3月期 通期 決算 <概略>」

- ・ 通期営業利益は 634 億円、前年比+815 億円の増加となりました(前年は 180 億円の赤字)。前年の赤字からのV字回復を実現することができました。
- ・ 売上高は前年比+1.1%増、為替を除き 0.0%。
- ・ 1-3月期の売上高は、前年同期比+6.1%増、営業利益は+21%増、当期純利益は+75%増と増収増益となっています。しかし、1-3月期は日本もアメリカも想定より売上が伸びませんでした。日本では年度末商戦に向けて販促費が増加し収益の下触れ要因となりました。
- ・ 結果として、通期の営業利益見通し 750 億円に対しては、634 億円と未達となりました。
- ・ 構造改革は計画通り推移し、前年比で+558 億円の効果で利益に寄与しています。
- ・ フリーキャッシュフローは、バランスシートの改善により通期で 180 億円の収入に転じました。
- ・ 以上を踏まえ、13 年 3 月期の期末の配当金は予定通り 16.5 円と株主総会に上程します。
- ・ 2014 年 3 月期の見通しは、前年比で営業利益+120%増、当期純利益は+146%増を見込んでいます。

## P3「2013年3月期 通期 損益計算書」

- ・ 売上高 1 兆 9,244 億円で前年同期比+1.1%の増収となりました。国内は前年同期比-1.8%、海外は+3.6%です。為替を除いても海外は+1.6%の増収になっております。内訳は、米州+0.9%、欧州+1.9%、その他地域+3.2%ということで、海外は全ての地域で前年より増加しています。
- ・ 売上高は第3四半期決算時の見込み 1 兆 9200 億円を為替の寄与が大きく、若干上回りました。
- ・ 国内の売上が若干伸び悩み、海外はほぼ想定通りでした。
- ・ 営業利益は 634 億円で前年より+815 億円増加しましたが前回の見通しの 750 億円に対して未達成です。
- ・ 税引前利益が 581 億円、前年比+901 億円の増益。当期純利益は 324 億円と前年比+770 億円の増益です。

#### P4「2013年3月期 営業利益:前年比増減」

営業利益が前期-180 億円から今期+634 億円となった要因分析です。

##### <前年特殊要因費用の減少>

前期に発生した減損費用(370 億円)、震災/洪水影響(60 億円)が無くなった分がプラスに寄与しています。

##### <構造改革効果>

558 億円の増益の内訳は、前期費用 341 億円が無くなった分、当期使った 166 億円の費用と効果 383 億円のネットです。

##### <総利益増加>

販売増+48 億円、製造原価低減+35 億円、研究開発費+70 億円となります。

##### <その他経費増>

327 億円の減益要因になっています。PENTAX、独ADA社を買収したことによる経費増、サービス事業立上げのための初期投資、特にAP極などの体制強化費用、新規事業の立上げ、拡大費用などが増加要因です。

##### <為替影響>

通期の為替影響は結果として±0 となりました。

以下は第3四半期決算時の営業利益見通し 750 億円との差異です。

- ・ 特に、構造改革費用の効果は+515 億円と見込んでいたものが+558 億円とプラスに寄与しています。
- ・ 販売増については、販売が想定ほど伸びず、+115 億円の見込みに対して 48 億円と 67 億円の減益の要因となっています。
- ・ 販売減は国内の売上未達で、一時的にミックスが悪化しており、国内消耗品の売上が減っています。海外においてはA4のMFP・プリンタでマーケットシェアを獲得しましたが、これが逆に売上を落とした形になりました。
- ・ 経費が 205 億円の増加見込みに対して、327 億円と 122 億円増加しています。経費については、年末商談の販促費用経費の増加、そのほか新規事業の拡大、旧来のカメラ事業の構造改革費用などが入っています。

## P5「参考◇2013年3月期 業績補足」

営業利益に関する四半期ごとの推移を表しています。

### <営業利益>

前年度の第2四半期の -133 億円は、構造改革費用を計上したものであり、第3四半期の -349 億円には減損費用が入っています。2013 年 3 月期に入ってから、順調に営業利益を伸ばしており、第4四半期では 229 億円となり営業利益率も 4.3%と改善しています。

### <販管費および一般管理費>

販管費率の水準も着実に低下しています。販管費を内訳でみると、2012 年 3 月期の第 2 四半期からは構造改革費用が入っており、各販管費合計から構造改革費用・減損費用を除くと約 1,350 億～1,500 億円近くの経費になっています。構造改革を始める前と比較すると、四半期ベースで約 100～150 億円の経費が圧縮できる体質になってきました。

## P6「画像&ソリューション分野(1)」

- ・ 売上高は 1 兆 6,853 億円、前年比で+0.9%、為替を除くと-0.3%となりました。
- ・ 事業セグメントでの営業利益は 1,379 億円、営業利益率は 8.2%となりました。
- ・ 四半期ごとにみると、2012 年 3 月期の第3四半期からは徐々に上昇し、2013 年 3 月期で 9.6% となり、2 桁の利益率に近づいています。

## P7「画像&ソリューション分野(2)」

### <MFP(オフィスイメージング)>

国内では、カラー機を中心にハードが伸びましたが、ノンハードが減少しました。海外では、A4MFP、カラー機が伸び、ノンハードも増加しました。

### <LP(オフィスイメージング)>

国内では、ハードが減収となりましたがノンハードは増加しました。海外では、ハード・ノンハードともに堅調に拡大しています。

### <MDS(オフィスイメージング)>

欧米を中心に 2 桁以上の売上成長を継続しています。

### <プロダクションプリンティング>

カットシート機がハード・ノンハードともに堅調に成長しました。

### <ネットワークシステムソリューション>

海外を中心に IT サービスが 2 桁成長を継続しています。また、PJS、UCS などが国内外で堅調に成長しており、お客様にトータルパッケージで提供できる環境が整いつつあります。

MFP・プリンタ・PP 計の前年同期比伸び率では、ノンハードが減少となっていますが、これは国内のノンハードが一時的に下落した影響をうけています。ただし、国内 MFP ノンハードの TDV そのものは落ちていないので、今後は改善すると予想しています。

#### **P8「参考◇地域別概況」**

<日本>

年度末商談で売上が伸び悩んだ影響もあり、マイナス成長となっています。

<米州>

売上は徐々に回復基調にあります。

<欧州>

前年比伸び率は下がっているが、増益基調にあります。

<その他>

中国の売上が減少した影響で若干マイナスとなっていますが、中国以外の AP 極では売上は堅調に伸びています。

#### **P25「参考◇所在地別セグメント営業利益推移」**

<日本>

構造改革が進み、利益は着実に増加しています。

<米州>

2012年3月期の第4四半期から、着実に利益を創出する体質になっています。

<欧州>

継続して好調です。

<その他>

継続して好調です。

#### P9「産業分野」

- ・ 売上が落ちていますが、これは主に計量器事業の譲渡によるものです。それ以外に大きな変動はありません。
- ・ 営業利益が赤字となっていますが、これは半導体事業の利益減によるものです。他の事業は堅調です。特に、RFID 対応のリライタブルハイブリッドメディア、FA カメラ、レンズに期待しています。また、セキュリティカメラやセンシングカメラを拡大するために投資をしています。

#### P10「その他分野」

- ・ 売上高は、PENTAX 連結影響分もあり伸びています。
- ・ 「PENTAX K-30」「PENTAX K-5 II」「PENTAX Q10」「GR」はリコーの傘下に入ってから製品であり、すべて好調です。特に一眼・ミラーレスの「PENTAX Q10」は好調で、昨年 11 月はミラーレスシェア 1 位を獲得しました。
- ・ しかしながら、まだまだカメラ事業は弱いと認識しており2013年度はさらに事業貢献していくよう強化します。
- ・ その他分野の営業利益が第 4 四半期で低下したのは、カメラ事業で過去の負の遺産を処理する費用を構造改革費用に計上したためです。
- ・ 4 月に新しく発売した高級コンパクト機「GR」も高評価を得ています。

#### P11「連結貸借対照表(1)」

- ・ 円安の影響で資産が増加していますが、実際はすべての項目で改善しています。
- ・ 棚卸資産回転期間は、2012 年 3 月期に 2.03 と一度増加しましたが 2013 年 3 月期にはほぼ前期末レベルに減少しました。
- ・ 総資産が増加していますが、円安の影響によるものです。
- ・ 期末日為替レートで、ユーロもドルも 10 円以上の円安になっているため、増加して見えていません。

#### P12「連結貸借対照表(2)」

- ・ 有利子負債は、390 億円減らしました。また、ネット D/E レシオも改善しています。
- ・ 株主資本比率も改善しました。さらにバランスシートを改善していきたいと考えています。

#### P13「連結キャッシュフロー計算書」

- ・ 第 1 四半期が -153 億円、第 2 四半期が -88 億円、第 3 四半期が -237 億円と大変苦しんでいましたが、第 4 四半期で 660 億円とフリーキャッシュフローがプラスになり、年間で 180 億円のフリーキャッシュフローを出すことができました。
- ・ 2009 年は買収によるマイナス、2012 年は構造改革によるマイナスですが、ようやくキャッシュフロー水準が戻りつつあると言えます。

- ・ 2014年3月期は、700億円程度は創出できると考えています。

#### P14「2014年3月期 環境認識」

経済・お客様・競合の状況を振り返ります。

##### <経済>

世界経済は2013年後半から緩やかに回復すると期待はしていますが、我々の事業に反映されるのは厳しいとの前提で考えています。

- ・ 欧州経済はまだまだ厳しいと認識しています。
- ・ 新興国市場は中国を始め成長率は若干スローダウンしてきています。
- ・ グローバルの経済状況はまだまだ厳しいものと捉えています。

##### <お客様>

お客様の志向の変化を実感しています。

- ・ TCOの削減要求が高まっているとともに本業に特化するために業務効率をあげたいとの切実な思いを持っています。
- ・ モバイル・クラウドの利用拡大が続き、ビジネスの形態が大きく変わりつつあります。
- ・ 「所有」から「利用」の流れが加速し、我々のビジネスも変化してきています。
- ・ お客様の志向に合わせて直売・直サービス網に投資・拡大してきました。これらをうまく利用すれば競合に勝てる新しいビジネスが展開できると信じています。

##### <競合>

先進国、新興国それぞれで競争が激化しています

- ・ 我々は総合力と直売・直サービス網で勝負していきたいと考えています。
- ・ A3/A4、MFP/プリンタ フルラインアップが揃いました。
- ・ ワンストップのトータルソリューション提案ができるようになっています。
- ・ ドキュメントの上流プロセス、ITサービスまでの領域を拡大してきていますので、我々としては競合に勝ちこれらの製品やサービスをお客様に提供できると確信しています。

## P15 「2014年3月期 重点施策」

### ＜17次中計基本戦略＞

「成長」と「体質改善」の同時実現

2014年3月期(17次中計の最終年度) 基本方針:体質改造の文化を定着させて成長を加速します。

### ＜基盤事業の収益力の徹底強化＞

- ・ 製品のラインアップを強化し、昨年度終わりから今年度末にかけてカラーMFP、モノクロ MFPの新製品をだし、そして弱かったA4MFPも強化しました。
- ・ 強力な新製品投入などで、さらなるシェア拡大および収益力強化を狙います。

### ＜基盤事業における新収益モデルの確立＞

- ・ MDS、ITサービスビジネスなど大手のお客様に合ったビジネスモデルを提供していきます。
- ・ 画像機器と新規事業(PJS、インタラクティブホワイトボード、USC 等)を含めた新しい価値を組み合わせ提供しています。
- ・ お客様に徹底的にサービスをしていく「Service-Led Company」に向けた変革を加速させています。

### ＜新規育成事業の成長加速＞

- ・ 産業用カメラ(光学事業)を始めとしたすでに開始した新規事業だけでなく、未来に向けた新規事業の育成を加速しています。

### ＜経済効率のさらなる向上＞

- ・ 構造改革を加速し経営効率を上げる不断の努力を続けていきます。

## P16 「2014年3月期 主要指標見通し」

- ・ 2014年3月期通期の売上高 2兆1,000億円(為替除く:+1.8%)、営業利益 1,400億円(+120.8%)、営業利益率 6.7%(+3.4%)、一株当たり当期純利益 110.34円(+146.4%)、ROE 8.6%、一株当たり年間配当金 33.0円としています。
- ・ 全体の為替レートは1US\$95円、1ユーロ125円を前提としています。
- ・ 現在の競合状況、経済環境を鑑みれば決して楽観的な数字ではないと考えていますが、何としても達成したいと考えています。

## P17 「2014年3月期 営業利益見通し:前年比増減」

営業利益が今期634億円から2014年3月期見通し1400億円となる要因の説明になります。

### ＜BPRの改善＞

設計・生産再編のため、4月からリコーインダストリー(株)、リコーテクノロジーズ(株)を設立しました。

#### P18「構造改革」

- ・ 2013年3月期は、166 億円を使用し、131 億の効果に加え 383 億円の効果を出しました。
- ・ 構造改革費用 558 億円の内訳は、前年度使用した 210 億円が無くなり増益に寄与し、今期 383 億円の効果が増益に寄与し、今期分の費用として 166 億円の費用が発生したということです。
- ・ 2014年3月期は、もう1段の構造改革を実施するため 100 億円を使用しますが、構造改革効果 246 億円が増益に寄与する予定です。
- ・ 構造改革は人だけの話ではなく、先にご説明した生産と設計機能再編、グローバル購買強化による為替影響の低下等々これからもいろいろとやっていきます。

#### P19「配当金&ROE 推移」

- ・ 2013年3月期の業績に基づいて、期末配当金は予定通り 16.5 円(8 円増配)で株主総会に上程する予定です。(上期 12.5 円、下期 16.5 円)
- ・ 2014年3月期には 4 円増配の年間 33 円(上期 16.5 円、下期 16.5 円)を予定しています。これにより配当性向は 29%となる予定です。